

東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構・外国人児童生徒教育推進ユニット 主催

2024 オンライン研修「多様性が生きることばの教育」

研修 B 幼・小・中・高を結ぶことばの学び

第1回研修会の報告

テーマ「来日間もない子どもの受入れと日本語指導の工夫

～はじめてとはじめてが出会って～」

1 実施状況(概況)

開催日:2024年6月9日

参加者:88名

アンケート回収数:61件(69.3%)

プログラム(下線:公開可能な資料)

13:30-14:00 趣旨説明・講義

「来日直後の子どもの受入れにおける配慮および日本語指導の工夫」

谷 啓子(東京学芸大学)

「幼小の学びの連続性について～子どもの学びの特性に着目して～」

原 瑞穂(東京学芸大学)

14:00-14:50 実践事例の報告「日本語初期段階の学習支援」

報告1 東京都新宿立大久保小学校 教諭 柏木めぐみ

報告2 横浜市立潮田小学校 教諭 高瀬 円

14:50-15:50 タスク活動

15:50-16:00 閉会

研修資料について

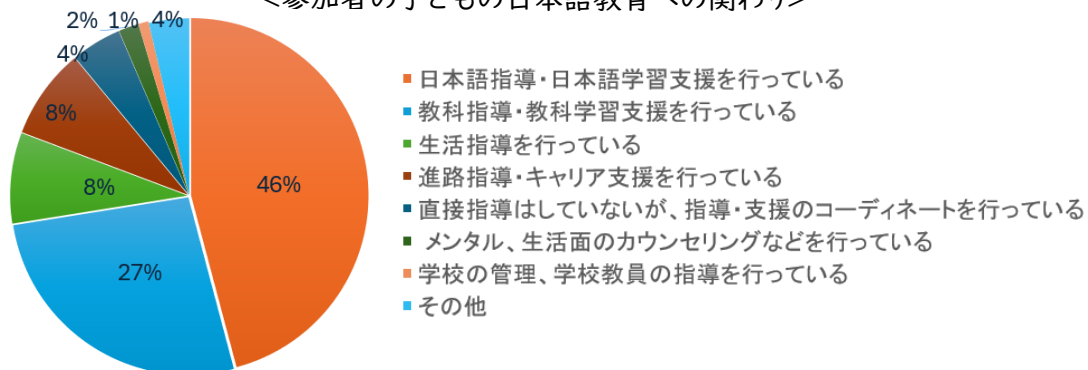
教育・研修を目的とした場で参照資料としてのご提示に留めてください。部分的な切り取りや、加工はお控えください。また、本事業資料である旨を明示してご利用ください。

2 研修ねらいと目標 ※文部科学省「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」の「豆の木モデル」(日本語教育学会 2019)に基づき設定

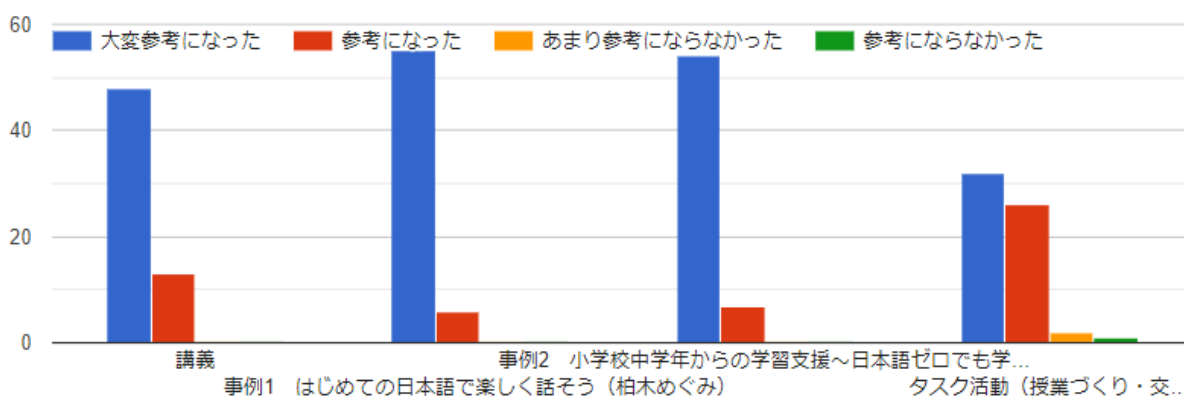
資質・能力	具体的目標
・捉える力(子どもの実態の把握)	ア 子どものシグナルを見逃さず、文化間移動と発達の視点をもってその 困難さを理解することができる。 イ 子どもの心理的状況を文化適応や家庭の状況に関連づけて理解することができる。
・育む力(日本語・教科の力の育成)	コ 第二言語習得や教育方法に関する知識を踏まえ、子どもの年齢的な発達の違いを考慮した日本語や教科の指導・支援をすることができる。

3 アンケートより

<参加者の子どもの日本語教育への関わり>



<参考になったか(満足度)>



<参加者の声>

講義で忘れがちになっていたことを再確認できました。事前の動画も用意してくださっていたのでしっかり学ぶことができました。事例1、2は具体的なお話に加え、先生方が大切になさっていることを教えていただき、ハッとさせられることもたくさんありました。子どもにとって意味のある活動を忘れないように授業を考えたいです。

現場で取り組まれている具体例を、たくさん共有してくださったことはとてもありがたかったです。早速、明日からの指導に生かしたいと思います。

考える作業を通して思考を深められました。多くの示唆を頂きました。



子ども達が日本語を身に付けようという気持ちになるよう、「日本語を使う必然性」「日本語が使えた方が楽しいよ」ということを伝える大切さを改めて感じました。日本語指導についての研修の機会がなかなかないので大変ありがたかったです。ありがとうございました。

4 研修企画者より

研修Bは‘はじめて’日本語(国際)教室担当になった方、指導経験が短い方を対象に、オンラインによる研修として計画しています。第1回は、来日間もなく日本語学習を始めて半年程度までの子どもたちを想定した指導・支援に関する内容で構成しました。参加者には、事前に、本ユニットが令和5年度に作成した初任者向け研修動画(全6講座)を研修Bに合わせて編集したものを視聴していただきました。

研修当日は、まず「講義」で、動画で視聴いただいた内容の確認と補足と、実践報告からより多くを学べるように、理論的背景についてお話ししました。続く「実践報告」では、子どもの関心を引き出し、楽しく学べる日本語指導の工夫をお話いただきました。報告①の柏木先生は主に小学校低学年、高瀬先生には主に中学年以上の実践を、豊富な資料で紹介くださいました。日本語ゼロからの体験を通し五感を使った楽しい活動、初期段階での教科を意識した日本語指導の内容が、参加者にとって大変参考になったようです。

最後に小グループで交流しながら、研修内容を反映したタスクに取り組みました。(タスクは次の3つから1つを選択。「指示が伝わらない時の工夫」「文型「～から(理由)」指導の工夫」「読み書きへの意欲を高める工夫」)。グループで取り組んだタスクは、3グループで紹介し合いましたが、活発な意見交換が見られました。ブレイクアウトルームへの移動・作業に少し手間取りましたが、次回以降は、スムーズに行えるよう工夫したいと思います。子どもの姿と参加者の皆さんの熱意から、力が湧いてくる研修となりました。